

目標意識・学習意欲を高め、
自立力育成につながる！

「ふりかえり力」の育成は 中高生のうちから始めよう

大学教育の今日的な課題とも言われるのが「ふりかえり力」。その力にはどんな効果があるのでしょうか？
また、それを身につけるために中高生のうちにやるべきことは……？

21世紀の社会を生き抜く能力を育成するためには「ふりかえり」が欠かせない
「ふりかえり」とは、自分自身や他者、そして社会についての認識が試され、新しい認識や行動を生み出すプロセス」と定義しているのは、体験学習型の教育プログラムの実践研究を行っている福岡女子大学の和栗百恵准教授。「ふりかえり」が単なる反省と大きく異なるのは、それが決して後ろ向きではなく、あくまでも「前に進むためのもの」で、「次の行動につなげるための作業」である点だと言う。

「『知識基盤社会』と言われる21世紀を生き抜くには、行き交う情報、多様化した価値観や激しい変化のなかにあっても押し流されることなく、他者とかかわりあいなから自らの立ち位置を確認・修正

し、見通しを立て、学び続けている能力が絶対が必要です。『ふりかえり』の姿勢はそのような能力を身につけるうえで欠くことができないと私は考えています。また『ふりかえり』によって自分自身や他者、社会を観察・理解する力だけでなく、目的意識をもつ、体験をよりよい次の実践につなげる、そこで得た学びを別なところに応用する、といったさまざまな能力も生み出されるのです」
「ふりかえり力」
「ふりかえり力」の育成は、早ければ早いほどいいというのも和栗准教授の意見。

「もちろん、発達段階に応じた『ふりかえり』というのはありますが、目標や自分の行動に対する『なぜ』を自らに問うことは幼少時からでも訓練できることです。中学生であれば、手帳や日記をつけることで、目標や見通しを立てたり、またその実践をふりかえり力に身につく効果があると考えられます。そのような力を培うことによって、進学や将来のキャリアといった中長期的な目標設定や、その目標のために自分がどう行動するかといった志向性も身につくことが期待されますね」



公立大学法人 福岡女子大学
国際文理学部
和栗百恵 准教授

1999年スタンフォード大学大学院修士課程・教育学(国際比較教育)専攻修了。スリランカや日本のNGOでの国際協力活動に従事した後、大学教育における体験的な学習プログラムを開発・研究に従事。キャリア教育やESD(持続発展教育)などの研究もしている。「ふりかえり」をテーマに講演多数

「フォーサイト」で 「ふりかえり力」の 「くりかえし」

中高生向きにキャリア教育に準拠したさまざまなコンテンツを開発しているFCEエデュケーションからこの春発売される、「生徒・学生向けビジネス手帳『フォーサイト』」は、注目の「ふりかえり力」の育成をズバリ狙った画期的な手帳だ。
ちなみに「フォーサイト」という名前には自分の人生を自分で切り拓いていく力＝自立力を身につけてもらいたいという願いがこめられている。毎日つけることで「ふりかえり」の「くりかえし」ができるという「フォーサイト」。ぜひ、活用してみたいかがだろうか。



書き込む習慣をつけることで、ふりかえり力を高める「フォーサイト」。白・紺の2色展開。シールを貼ったり、絵を描いたりすれば、自分だけの1冊になり、より愛着がわく



